

## はがじ 12 羽賀寺

所在地：小浜市羽賀

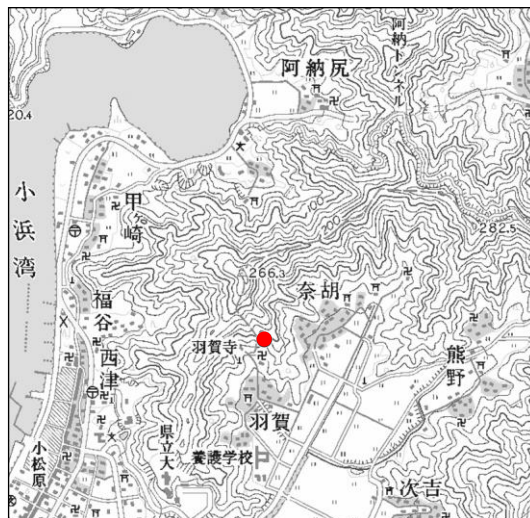
調査原因：通常砂防工事代谷川（徳蔵坊川）

調査期間：令和3年5月～10月

調査主体：福井県埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,930 m<sup>2</sup>

時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

**遺跡について** 羽賀寺は小浜市の中央部、天ヶ城山<sup>てんがじょう</sup>の谷の中にある寺院です。霊龜<sup>れいき</sup>2（716）年の開基と伝わる古刹で、中世には、時の天皇や有力な武家の庇護<sup>ひご</sup>を受けて栄えていたことが知られています。この羽賀寺の一角で、通常砂防工事代谷川（徳蔵坊谷川）に伴い、令和2・3年度に発掘調査を行うこととなりました。

図1をみると、本堂が建っているのは谷の底の平坦な場所であることが分かります。同じような平坦面は、本堂から開山堂<sup>かいざんどう</sup>にかけて、開山堂の北側の谷、参道の両脇にもあり、谷底の白丸の範囲<sup>ひなだん</sup>に雛壇状に平坦面が並んでいる様子が分かります。実は、江戸時代の初めに作られた絵図に、谷の中に建物が建ち並んでいる様子が描かれており、今に残る平坦面は、その名残と考えられています。

調査範囲には、谷底に3段、谷の斜面に複数の小さな平坦面がありました。令和2年度には下段と中段の調査を行い、石列や砂利敷きなどを確認しました。令和3年度の発掘調査では上の平坦面と斜面の平坦面が調査対象となりました。

**主な遺構** 谷の底では、土を盛って作った平坦面が確認できました。この平坦面の一番奥には土留め状の石列が見つかりました。また、これと直交する方向には石列と石組み溝が、並行する向きに石列と砂利敷きがあったので、もしかすると、平坦面の中を四角く区画して、その外側に砂利を敷いていたのかもしれませんが。

谷の斜面では、地面を直接削って平坦面をいくつも作っている様子が分かりました。

**主な遺物** 見つかったのは、素焼きの皿、黒くいぶした火鉢<sup>ひばち</sup>、越前焼のすり鉢・甕<sup>かめ</sup>、青磁碗<sup>せいじわん</sup>などで、14～15世紀のものが中心です。 (吉田悠歩)

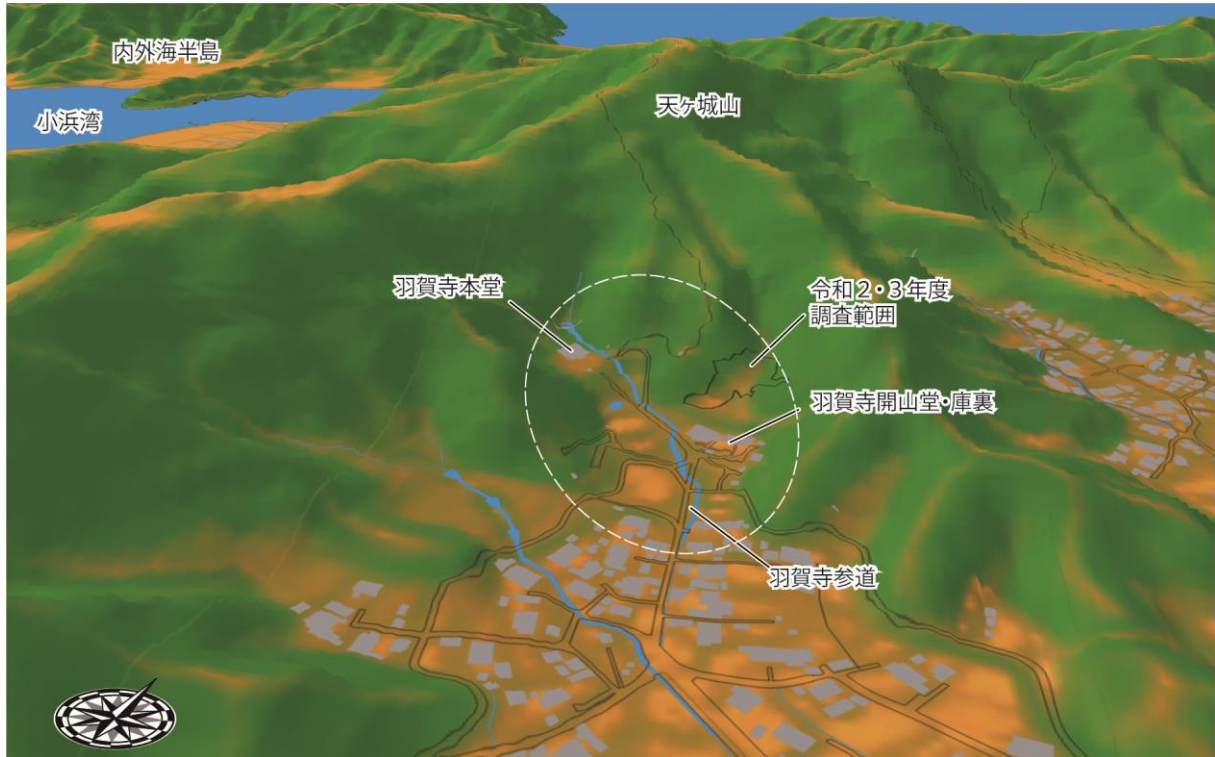


図1 羽賀寺鳥瞰図（国土地理院発行基盤地図情報及びDEMを用いて作画）



写真1 調査区全景



写真2 谷底の平坦面の石列・砂利敷き



写真3 土留め状の石列



写真4 遺物出土状況